

日本免疫毒性学会 2023 年総会審議記録

1. 日時等

- 形式：第 30 回大会時に対面で開催
 - 日程：2023 年 9 月 11 日（月）13:00~13:40
 - 会場：Shimadzu Tokyo Innovation Plaza 4階
- 審議事項回答期限：9 月 12 日（火）13:00

2. 審議結果

2.1. 審議事項

参加 50 名全員の賛成により可決

- 人事（名誉会員、新評議員、次々期・第32回年会長）
- 会計（2022 年度決算、2022 年度監査報告、2024 年度予算）
- 理事年会費の増額について
- 事業計画

2.2. その他

意見無し

日本免疫毒性学会 2023年 総会

議事次第

I. 理事長挨拶（齋藤理事長）

II. 報告事項

[1] 総務報告（小島）

- ① 会員数、入退会状況
- ② 役員数
- ③ 学会Webサイトバナー契約現状
- ④ 評議員推薦
- ⑤ 事務局業務外部委託、他

[2] 学術年会報告

- ① 第29回開催報告（小島前年会長）
- ② 第30回開催報告（中村年会長）

[3] 委員会報告

- ① 学術・編集委員会（黒田委員長）
 - (1) ImmunoTox Letter 発刊
 - (2) 学会賞・奨励賞選考
 - (3) 免疫毒性研究プロトコル集[仮]
- ② 広報委員会（吉岡委員長）
- ③ 試験法委員会（坂入委員長）
 - (1) 試験法ワークショップ
 - (2) AOP小委員会
 - (3) JaCVAM関係

④ 連携学会委員会（西村委員長）

- (1) SOT-ITSSとの国際交流
- (2) 毒性学会での合同シンポジウム

⑤ 将来構想委員会（仲間委員長）

- (1) 運営委員任期に関する内規
- (2) 入会初年度の年会費無料制度と入会状況

[4] 事業報告（齋藤理事長）（業務年度：10月から翌年9月末）

III. 審議事項

[1] 人事（小島）

- ① 名誉会員
- ② 新評議員
- ③ 次々期・第32回年会長

[2] 会計（小池理事）（会計年度：4月から翌年3月末）

- ① 2022年度決算案
- ② 2022年度監査報告
- ③ 2023年度修正予算（参考）
- ④ 2024年度予算案

[3] 理事年会費の増額について（齋藤理事長）

[4] 事業計画（齋藤理事長）

IV. 次期、次々期 年会長挨拶

報告事項

事務局報告 (1)

会員動向 & 会費納入状況

◆2022年度の会員数(2022/4～2023/3)

会員種別	4月	3月	増減
一般会員	152	163	11
学生会員	7	15	8
賛助会員	1	1	0
名誉会員	12	12	0
総数	172	191	19

◆2023年度の会員数(8月19日現在)

会員種別	4月	8月	増減
一般会員	163	167	4
学生会員	15	21	6
賛助会員	1	1	0
名誉会員	12	12	0
総数	191	201	10

◆2022年度入退会(2022/4～2023/3)

会員種別	入会	退会	増減
一般会員	16	5	11
学生会員	9	1	8
賛助会員	0	0	0
総数	25	6	19

退会者のうち一般2名、学生1名は会則(会員)第5条(2)により退会(会費未納による退会)

◆2023年度入退会(8月19日現在)

会員種別	入会	退会	増減
一般会員	8	4	4
学生会員	7	1	6
賛助会員	0	0	0
総数	15	5	10

一般会員8名中2名が初年度会費無料の会員

◆2022年度末会費納入状況

	3月末
未納なし	134
未納あり	40
合計	174

* 会費納入は名誉会員と5名の初年度年会費無料会員を除く

◆2023年度末会費納入状況

	8月
未納なし	61
未納あり	126
合計	187

* 会費納入は名誉会員と2名の初年度年会費無料会員を除く

役員数

◆2022年の役員数

	4月	10月	3月
理事	20	20	20
評議員	49	38	38
監事	2	2	2

◆2023年の役員数

	4月	10月	3月
理事	20	20	-
評議員	38	40?	-
監事	2	2	-

バナー広告

現在掲載中 (1社)	フォーネスライフ株式会社	5/1更新
---------------	--------------	-------

Japanese Society of Immunotoxicology

ImmunoTox Letter 機関誌

新着情報

- < Letter Vol.27 No.1 更新しました
- 新成员 更新しました
- < Letter Vol.26 No.2 更新しました
- 大会 更新しました
- 歴代受賞者 更新しました

お知らせ | 次々回 年会のお知らせ

学術年会
月)～13日(火) 予

45

評議員推薦

- 評議員候補につきましては、2023年7月27日から8月21日の期間、評議員2名による推薦を受け付けました。理事会（2023年9月10日）において推薦候補として了承され、総会（2023年9月11日）において承認を得ます。

事務局業務の外部委託

- 昨年の総会において、学会事務局業務の一部を外部委託されることが審議・了承され、今年2月より株式会社ソウブン・ドットコムへの業務委託が開始されました。

その他

- 会員の異動、会員（名誉・一般・学生・賛助会員・休会員）数の推移と会費納入状況の把握、自動退会（会費未納退会）の整理等の事務
- 外部からの問い合わせ対応

学術年会報告 2022年@札幌（対面開催）



期日	2022.9.12-13
会場	ACU札幌（アスティ45、16階）
年会長	小島 弘幸 北海道医療大学薬学部衛生薬学講座
テーマ	免疫毒性と疾患—新たな軌跡を描く—
年会賞	東北大学大学院歯学研究科 黒石智誠
学生・若手優秀発表賞	京都大学大学院工学研究院 大森一生 立命館大学大学院院薬学研究科 山口慎一郎
同時開催	第79回日本産業衛生学会アレルギー免疫毒性研究会
共催	日本産業衛生学会アレルギー免疫毒性研究会
協賛	日本衛生学会・日本食品衛生学会・日本毒性学会・日本毒性病理学会・日本薬学会
後援	日本アレルギー学会





期日	2023.9.11-13
会場	Shimadzu Tokyo Innovation Plaza他
年会長	中村 亮介 国立医薬品食品衛生研究所 医薬安全科学部・第三室長
テーマ	社会に求められる新たな免疫毒性研究
同時開催	第81回日本産業衛生学会アレルギー免疫毒性研究会
共催	日本産業衛生学会アレルギー・免疫毒性研究会
協賛	日本衛生学会・日本食品衛生学会・日本毒性学会・日本毒性病理学会・日本薬学会
後援	日本アレルギー学会
演題数	ポスター 20、口頭 13、計 33
講演	特別講演 2、教育講演 1、第30回記念講演 2、 受賞講演 2、シンポジウム 5、試験法WS 4、 ランチョン 2
事前登録参加	会員 65、非会員 17、学生 8、協賛・後援学会員 13、 計 103名

1. 学会賞・奨励賞選考結果

学会賞・奨励賞選考小委員会（委員長、井上智彰先生）で選考が行われ、理事会の承認を得て、第13回（2023）の受賞者は下記の通りに決定した。

学会賞 **中村 和市** 先生（北海道大学大学院 獣医学研究院）

※生殖免疫毒性という新たな概念の確立

奨励賞 **黒石 智誠** 先生（東北大学大学院 歯学研究科）

※金属アレルギーの発症メカニズムと予防・治療法に関する研究

2. ImmunoTox Letter 発刊

（WEBに open access、MLにて会員への案内、WEBに掲載）

通巻54号（27巻2号） 2022年12月発刊

- 第30回日本免疫毒性学会学術年会（予告1）
- 第29回日本免疫毒性学会学術年会報告
- 第29回日本免疫毒性学会学術年会 年会賞、学生・若手優秀発表賞
- 世界の免疫毒性研究者へのインタビュー第11回 他

通巻55号（28巻1号） 2023年6月発刊

- 第30回日本免疫毒性学会学術年会（予告2）
- 第12回日本免疫学会学会賞、第12回日本免疫毒性学会奨励賞
- シリーズ：免疫毒性研究の若い力 26
- 免疫毒性評価に関するアンケート調査 他

3. 免疫毒性研究プロトコル集（仮）

新たに「免疫毒性研究プロトコル集（仮）」をスタートする予定です。

年明け以降にまずは3本ほど会員専用ページにて公開する予定です。

1. HPの改訂

- ・委員会を含め、日本語・英語版のHPを大幅に改訂後（2022年10月、11月）、随時、改訂中
- ・現在、会計情報を除いた総会議事録資料をHPに掲載している一方で、会計情報は公開していない。そこで、会計情報を掲載するための会員専用ページを作成。現在、運営委員会内規も掲載している。

2. リンクバナー広告

- ・フォーネスライフさんが更新・広告料の請求は創文社が担当
- ・事務局から会員にメールする際に、JSIT BLINC Newsにてフォーネスライフさんを紹介。＜4月と8月＞

3. SNS発信（Facebook、Twitter）

- ・年会について発信。今後も、大きな案件を発信予定。

4. HPの管理について 下記について、審議中である。

1) HTTPSへの変更＜対応必須と考える＞

現行のHTTPはセキュリティが脆弱であり、最悪の場合、HPにウイルスを仕込まれてしまうため、HTTPSへの変更などの対応が必須である。

2) 年会HP＜対応必須と考える＞

以前の年会HPのURLが某企業（海外のドラッグ輸入サイト）に乗っ取られている（アクセス奪取）ことから、対応を検討中である。

3) GoogleAnalyticsによるログ集計継続の可否

2023年6月で新しい管理方法（GA4）に切り替わり、これまでの集計方法では2023年7月以降集計されなくなっている。GoogleAnalyticsの必要性を含め、対応を検討中である。

4) HPの改訂費用なども高くなっていることから、経費削減法について検討中である。

試験法WS 9/12 14:30-16:30

「ヒト免疫系を模した評価モデルの現状と将来展望」

- ・ **HLAトランスジェニックマウスを活用した薬物毒性研究の現状と展望**：千葉大学大学院薬学研究院 青木重樹
- ・ **ヒト化マウスやゲノミクス技術を用いたワクチンアジュバントの安全性評価**：国立感染症研究所 治療薬・ワクチン開発研究センター 佐々木永太
- ・ **Construction of the human-type functional lymphoid tissues/organoids and their immunological function**：Takeshi Watanabe, Institute for Life and Medical Sciences, Kyoto University
- ・ **老化促進モデルマウス (SAM) の老化病態に関わる免疫学的特徴 ～高齢者免疫毒性評価モデルとしての意義～**：川崎医科大学 衛生学 西村泰光
- ・ **総合討論**

1. 開発中のAOP

現在、以下の3件のAOPを開発しており、AOP wikiへの登録が完了している。

1) AOP315：JAK3阻害によるTDAR抑制

吉田安宏，福山朋季，後藤玄（コーチ：Shihori Tanabe）
進捗：コーチレビュー終了。次のScientific Reviewプロセスとして、ジャーナル投稿によるレビューをコーチよりsuggestされた。Alternatives to Animal Experimentation (ALTEX) を投稿先に定め、原稿を準備中。

2) AOP313：Toll様受容体 (TLR) 7/8活性化による乾癬様皮膚疾患の誘発

小松弘幸，秦信子，松村匠吾（コーチ：Julija Filipovska）
進捗：コーチからの指摘を受け、関連AOPのKEとネットワーク構築できるようKE及びKERを修正の上、AOP wikiを修正。

3) AOP314：エストロゲン受容体活性化による全身性エリテマトーデスの増悪

大坪靖治，小西寿美恵，伊藤志保，田食 理沙子（コーチ：Sabina Halappanvar）
進捗：AOの汎用性が高くないことや、KERをサポートする実験情報の乏しさを考慮し、OECD AOP wikiへの収載を断念。Toxicology Letters誌を投稿先に定め、原稿を準備中。

2. JaCVAMの依頼により開発を引き継いだAOP

AOP277 : Impaired IL-1R1 signaling leading to increased susceptibility to infection

進捗：Scientific Review結果を受けて，AOをmeasurableな指標であるTDAR（AOP154のAOと共有）に変更．提案者の相場先生，木村先生の承認を得てAOP wikiを修正．Scientific Reviewとしての外部レビューは終了．

3. AOP開発活動の周知

杉本先生がImmunoTox Letter Vol. 27 No. 2に「免疫毒性に関するAdverse Outcome Pathway（AOP）の開発」を投稿．

4. JaCVAM関連

5月29日にJaCVAMステークホルダー会議に参加．AOP活動等，今後も連携を継続．

5. Position Paper作成

2022年 第29回学術年会の試験法ワークショップを受け，中村和市先生のアドバイスのもと，日本免疫毒性学会としてPosition Paperを発表すべく，試験法委員会にて準備を開始した．間先生，久保先生，松村先生のご協力を得ながら原稿を準備中．

Position Paperのキーメッセージ：各モダリティによって課題となる免疫毒性（多くは免疫刺激性）が明らかになってきており，それぞれに対する試験法について最適化を進める必要がある．

課題：投稿内容に関する著者所属会社の承認及び意見反映．ただし，公知データがほとんどであり，大きなハードルとはならない見込み．

SOT/ITSSとの国際交流

- ◆ ITSS Newsletter
 - 第29回学術年會に招聘されたDr. Jamie C. DeWitt先生による年會報告の寄稿文が掲載されました。
- ◆ 第30回日本免疫毒性学會学術年會（2023年）における特別講演
 - SOT-ITSSのMitchell Cohen先生とLaine P Myers先生の協力のもと、Dr. Kristina E. Howard先生（U.S. Food and Drug Administration）を指名しました。中村年會長の招聘に応え、Howard先生から講演の承諾を得ました。
- ◆ SOT2023におけるシンポジウム
 - ITSSとの共同シンポジウムとして“Immunotoxicity of essential and non-essential metals by environmental and occupational exposure”を立案しましたが、SOT本部への提案には至りませんでした。

- ◆ SOT2024, 2025におけるシンポジウム
 - SOT2024に参加し、ITSSメンバーと詳細を議論する。
 - SOT2025（March 16–20 2025, Orland, Florida）への応募を目指す。

日本毒性学會との共同セッション

- ◆ 第50回日本毒性学會（2023年）で日本免疫毒性学會との合同シンポジウム、「免疫毒性学ってナンだ? - “働く免疫細胞”に起こる毒性影響-活性化と抑制-」を開催しました。
- ◆ 第52回日本毒性学會（2025年）で合同シンポジウムを開催予定。
 - 第52回日本毒性学會学術年會
会期：2025年7月2日～4日
会場：沖縄コンベンションセンター
年會長：黄基旭（東北医科薬科大学 薬学部）
・2024年9月頃に合同シンポジウム案を作成し、準備を進める。

1. 運営委員の任期に関する内規の運用開始

- ・ 昨年の理事会で承認された運営委員の任期に関する内規を昨年の10月1日から施行
- ・ 内規は広報委員会にて作成された会員専用の資料・情報ページに格納した

運営委員の任期に関する内規

2022年10月1日 施行

任期があるのは運営委員会に参加する運営委員（各委員会の委員長）のみとし、各委員会の委員としての活動（および理事としての活動）は継続します。

<内規>

- ・ 運営委員の任期は1期3年とし、最長連続2期までとする。
- ・ 任期終了後3年間は運営委員への再任は認められない。
- ・ ただし、任を解かれたのち、必要に応じて1年間のみオブザーバーとして運営委員会に参加することができる。

2. 入会初年度の年会費無料制度と入会状況について

- ・ 第28回（WEB）：非会員発表5名 その内4名が一般会員継続（1名退会）
- ・ 第29回（札幌）：非会員発表6名 6名全員が一般会員継続（2023年6月28日現在）
- ・ 第30回（川崎）：2名が初年度参加無料制度で登録（2023年6月28日現在）
⇒ 過去2年では10名の会員増加につながっている。

3. 学会員向けアンケート

- ・ 学術年會に期待する研究分野、今後取り上げてほしいテーマを抽出する目的で前将来構想委員会にて計画されていたアンケートについて現委員会メンバーでレビュー
- ・ MS Formsを用いて全学会員を対象にアンケートを実施した。
対象：全学会員
アンケート期間：2023年2月14日～2023年3月20日
回答数：47（会員総数194名、回答率24.2%）

日本免疫毒性学会事業報告（2022年10月から2023年9月）

1. はじめに

新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、第29回学術年会（2022年9月12日～13日）に引き続き、今年度の第30回学術年会（2023年9月11日～13日）も対面での開催となりました。例年2日間の日程ですが、今年度は3日目に公開シンポジウムとして「環境中化学物質の免疫毒性リスク評価」を開催いたしました。その他の活動としては、第62回米国トキシコロジー学会年会（2023年3月）における米国トキシコロジー学会免疫毒性専門部会（SOT-ITSS）との共同シンポジウムは今回も見送りとなり、より日本の研究成果をアピールすると共に、米国との個別の共同研究等を進める必要があると考えております。一方で、SOTにおけるITSS集会で、日本免疫毒性学会の特別名誉会員3名への授与セレモニーが組みれ、連携を確認する機会となったことは喜ばしく、関係の先生方に深く感謝申し上げます。また、今年は日本毒性学会との合同シンポジウムが、西村連携学会委員長の企画で開催され、中村和市・前理事長を初めとする5名が講演し、会場がほぼ埋まるほど盛況となり、免疫毒性学に関する関心の高さを感じました。さらに、JaCVAMから委託を受けた事業に関しては今年もAOP開発に多くの学会員が関わり貢献しました。

上記を含め、2022年度の活動につきまして、以下に概要をご報告いたします。

2. 事業内容（活動年度：2022年10月から2023年9月まで）

1) 運営委員会の開催

2022年12月23日と2023年7月18日にリモートで開催されました。

2) 理事会の開催

2023年9月10日に、川崎で開催されました。

3) 総会の開催

2023年9月11日に、学術年会にあわせて対面で開催されました。

4) 第30回日本免疫毒性学会学術年会の開催

第30回日本免疫毒性学会学術年会は、2023年9月11日（月）～13日（水）に川崎市で開催されました。

年会長は中村亮介 理事（国立医薬品食品衛生研究所 医薬安全科学部）で、テーマは「社会に求められる新たな免疫毒性研究」でした。URL：https://www.jsit2023.jp

5) ImmunoTox Letterの発行

下記の2号（日本語版、英語版）を刊行しました。

- ・27巻第2号（通巻54号、2022年12月号）
- ・28巻第1号（通巻55号、2023年6月号）

6) 第13回（2022年度）学会賞及び奨励賞の授与

学会賞は中村和市先生（北海道大学大学院 獣医学研究院）が「生殖免疫毒性という新たな概念の確立」の研究で受賞されました。

奨励賞は黒石智誠先生（東北大学大学院 歯学研究科）が「金属アレルギーの発症メカニズムと予防・治療法に関する研究」、で受賞されました。

それぞれ記念品が授与されました。

7) 第31回日本免疫毒性学会学術年会（2024年）の開催準備

第31回日本免疫毒性学会学術年会は、黒田悦史 理事を年会長として開催の準備が進められています。

- ・期日：2024年9月19日（木）～20日（金）
- ・会場：兵庫医科大学平成記念会館
- ・年会長：黒田悦史（兵庫医科大学医学部・免疫学講座）
- ・事務局長：松下一史（兵庫医科大学医学部・免疫学講座）
- ・テーマ：免疫毒性研究から環境と医療を見つめる

8) 第32回日本免疫毒性学会学術年会（2025年）

第32回日本免疫毒性学会学術年会の年会長については、理事会（2023年9月10日）において中西剛 先生（岐阜薬科大学 衛生学研究室）が推挙されました。

9) 関連学会等との連携企画の開催

第30回免疫毒性学会学術年会は、第80回日本産業衛生学会アレルギー・免疫毒性研究会との共催といたしました。

第50回日本毒性学会学術年会（2023年7月に開催）における日本免疫毒性学会合同シンポジウム、「免疫毒性学ってなんだ?-"働く免疫細胞"に起こる毒性影響-活性化と抑制-"が開催されました。

また、第63回米国トキシコロジー学会年会（2023年3月、Nashville）でのSOT-ITSSとの共同シンポジウムとして“Immunotoxicity of essential and non-essential metals by environmental and occupational exposure”を立案しましたがSOT本部への提案には至りませんでした。

3. 事務局及び諸委員会の活動

運営委員会（2022年12月23日及び2023年7月18日）では、会務運営や学術年会開催準備等について議論されました。各委員会等の活動は次の通りです。

1) 事務局（小島理事、窪田委員）

- ・会員の異動、会員（名誉・一般・学生・賛助会員・休会員）数の推移と会費納入状況の把握、自動退会（会費未納退会）の整理等の事務
- ・外部からの問い合わせ対応

2) 財務(委員長：小池理事)

- ・財務管理
- ・決算書及び予算書の作成

3) 学術・編集委員会（委員長：黒田理事）

学会賞、奨励賞推薦の取りまとめを行いました。またImmunoTox Letterの編集・発行を年2回行い、学会ホームページに掲載するとともに、会員に対してメールマガジンにて周知を図りました。また、英語版の発行も継続しています。

4) 広報委員会（委員長：吉岡理事）

継続して学会ホームページの更新を行い、英文ホームページの充実に努めました。学会Facebookページ、Twitterアカウントjs_immunotoxからの発信も積極的に行いました。

5) 試験法委員会（委員長：坂入理事）

第30回免疫毒性学会学術年会での試験法ワークショップ「ヒト免疫系を模した評価モデルの現状と将来展望」を企画しました。発表演題は以下の通りです。

- ・HLAトランスジェニックマウスを活用した薬物毒性研究の現状と展望
千葉大学大学院薬学研究院 青木重樹 先生
- ・ヒトマウスやゲノミクス技術を用いたワクチンアジュバントの安全性評価
国立感染症研究所 治療薬・ワクチン開発研究センター 佐々木永太 先生
- ・Construction of the human-type functional lymphoid tissues/organoids and their immunological function
Yuka Kobayashi, ○Takeshi Watanabe, Hiroshi Kawamoto
Lab of Immunology, Institute for Life and Medical Sciences, Kyoto University
- ・老化促進モデルマウス（SAM）の老化病態に関わる免疫学的特徴 ～高齢者免疫毒性評価モデルとしての意義～
川崎医科大学 衛生学 西村泰光 先生
- ・総合討論

AOP小委員会（委員長：大石 巧 委員）

JaCVAMから日本免疫毒性学会が作成依頼を受けたOECD AOP（Adverse Outcome Pathway）における免疫毒性に関するAOP開発に関して、14名の本学会員からなるAOP小委員会が対応しました。

- ・AOP315： JAK3阻害によるTDAR抑制
論文投稿を準備しています。
- ・AOP313： Toll用受容体（TLR）7/8活性化による乾癬様皮膚疾患の誘発
AOP wikiの修正が完了しました。
- ・AOP314： エストロゲン受容体活性化によるエリテマトーデスの増悪
論文投稿を準備しています。
- ・AOP277： IL-1R1シグナル阻害による感染性の増加
JaCVAMから引き継いだ案件です。Scientific reviewが完了しました。

6) 連携学会委員会（委員長：西村理事）

第30回日本免疫毒性学会学術年会を第81回日本産業衛生学会アレルギー・免疫毒性研究会との共催としました。SOT-ITSSのMitchell Cohen先生とLaine P Myers先生の協力のもと、第30回日本免疫毒性学会学術年会（2023年）の特別講演にDr. Kristina E. Howard（U.S. Food and Drug Administration）を指名しました。中村年会長の招聘に応え、Howard先生から講演の承諾を得ました。

第64回米国トキシコロジー学会年会（March 16–20 2025, Orland, Florida）に向けてSOT-ITSSあるいは他のSpecialty Sectionとの共同シンポジウムを企画し提案する予定です。

第52回日本毒性学会（JSOT）学術年会（2025年7月2日-4日、沖縄コンベンションセンター、年会長 黄基旭）における合同シンポジウムに向けて、アイデアを出していきます。

7) 将来構想委員会（委員長：串間理事）

「非会員の入会初年度年会費無料制度」は会員増加に寄与しています。第29回年会での非会員発表者6名のうち全員が一般会員になっていただきました。第30回年会でも数名の非会員発表者が登録されています。本制度の退会者へのアンケート調査および学会運営に関する一般会員へのアンケート調査を実施いたしました。

審議事項

(1) 名誉会員（理事会審議・承認済み）

手島 玲子 先生（会員番号：124）

岡山理科大学獣医学部 食品衛生学講座

推薦者：小川 久美子 理事、中村 亮介 理事

(2) 評議員候補

中山 勝文 先生（会員番号：706）

立命館大学薬学部 免疫微生物学研究室

推薦者：黒田 悦史 評議員、立花 雅史 評議員

佐々木 泉 先生（会員番号：718）

和歌山県立医科大学 先端医学研究所 生体調節機構研究部

推薦者：吉岡 靖雄 評議員、青木 重樹 評議員

(3) 第32回学術年会（2025年度）年会長

中西 剛 理事

岐阜薬科大学 生命薬学大講座 衛生学研究室

2022 年度決算（会計年度：2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日）

会計監査も実施されました。

いずれも、別紙のとおりです。

理事年会費の増額について

年会費について、運営委員会より、一般会員のうち理事の年会費を来年度から2千円値上げする案（8千円→1万円）が提案された。

承認された場合、「入会及び会費規定」を以下のように変更する。

【入会及び会費規定】

入会に当たっては、事務局に所定の手続きを行い、当該年度の会費を納めるものとする。入会金は徴収しない。

会費は次のように定める。

一般会員 年額 8,000円

理事会員 年額 10,000円（実施時期については、今後理事会で決定）

学生会員 年額 2,000円

賛助会員 年額 50,000円

本規定の改定は、総会の承認を要する。

理由：繰越金が年々減少しており、2022年度実績に基づくと、今後も減少が続くと予想される。要因として、収入の減少と事務局業務外部委託費による支出が挙げられる。支出の削減に関し、2023年度（令和5年10月～）に検討を行うが、同時に収入を増やす取り組みが必要である。まずは理事会費を上げたうえで、他の収入増の検討をしたい。

日本免疫毒性学会事業計画（案）（2023年10月から2024年9月）

1. はじめに

2023年度も2022年度と同様の活動を予定しております。年会は黒田年会長の下、久しぶりに関西での開催となる兵庫県西宮市で催されます。また、2023年6月に米国FDAが非臨床における免疫毒性評価に関するガイダンスを最終化したこともあり、免疫毒性評価手法への関心が高まっております。このため、本学会としてのPosition paperの発刊、さらには免疫毒性プロトコル集の編纂など、新たな活動を開始しており、これらを着実に進めて参ります。一方で、学会活動を支える財務は年々繰越金が少なくなっておりますので、新たな歳出削減策に加えて、収入増につながる施策を考えて会員の皆様にご提案をしたいと考えております。また、本学会に期待される学術的専門性に対する責任を果たすべく、本学会が委託を受ける事業についても積極的に取り組みます。今年度も学会活動への会員の皆様の積極的なご参加をどうぞ宜しくお願い申し上げます。

2. 事業内容（活動年度：2023年10月から2024年9月まで）

1) 運営委員会の開催

年2回（2023年12月と2024年7月）、リモート開催の予定です。

2) 理事会開催

2024年9月に西宮にて開催の予定です。

3) 総会の開催

2024年9月に西宮にて開催の予定です。

4) 第31回日本免疫毒性学会学術年会（2024年）の開催

黒田悦史理事を年会長に2024年9月に兵庫医科大学平成記念会館（西宮市）で開催いたします。

テーマは「免疫毒性研究から環境と医療を見つめる」です。

5) ImmunoTox Letterの発行

下記の2号の刊行を予定しています。

・28巻第2号（通巻56号、2023年12月号）

・29巻第1号（通巻57号、2024年6月号）

6) 学会賞及び奨励賞の選考

第14回（2023年度）学会賞・奨励賞の選考を行います。

7) 第32回日本免疫毒性学会学術年会(2025年)の準備

第32回日本免疫毒性学会学術年会（2025年）の年会長は、理事長が委嘱し、総会で承認を得たのち企画を開始します。

8) 関連学会等との連携

関連学会等との連携により、免疫毒性をテーマとしたシンポジウム等を企画します。

第64回米国トキシコロジー学会学術年会（2025年）におけるSOT-ITSSとの合同シンポジウム開催を企画します。企画の締め切りが2024年5月となる見込みであり、SOT-ITSSおよび関連するSOTメンバーとの折衝を開始する予定です。

日本免疫毒性学会事業計画（案）（2023年10月から2024年9月）

3. 事務局及び諸委員会の活動

以下の活動を予定し、運営委員会（2023年12月及び2024年7月に開催予定）で検討されます。

1) 事務局

- ・会員の異動、会員（名誉・一般・学生・賛助会員・休会員）数の推移と会費納入状況の把握、自動退会（会費未納退会）の整理等の事務
- ・外部からの問い合わせ対応

2) 財務

- ・財務管理
- ・決算書及び予算書の作成

3) 学術・編集委員会

ImmunoTox Letterの編集・発行を年2回行い、学会ホームページに掲載するとともに、会員に対してメールマガジンにて周知を図ります。また、英語版の発行も継続して行います。

第14回（2023年度）学会賞及び奨励賞の選考のため、学会賞等選考小委員会委員長を指名し、受賞候補者の選考を依頼します。

4) 広報委員会

引き続き、学会ホームページのタイムリーな更新を行い、英文ホームページの充実に努めるとともに、Facebook及びTwitterからの発信を積極的に行います。

バナー広告企業が減少していることから、積極的な勧誘を行います。

5) 試験法委員会

第31回学術年会（西宮、2024年）では、年会長と連携しながらワークショップを開催します。

JaCVAMから日本免疫毒性学会が依頼を受けたAOP（Adverse Outcome Pathway）の開発に引き続き取り組み、原稿準備中のAOP314及びAOP315については論文投稿を予定しています。

6) 連携学会委員会

SOT-ITSSの協力のもと、第31回学術年会（2024年）の特別講演の講師を選考します。

第64回米国トキシコロジー学会年会（2025年3月）でのSOT-ITSSとの共同シンポジウムの企画をITSSとの連絡を密にして進めます。SOT2024でのITSSミーティングには西村泰光先生及び福山朋希先生に出席していただく予定です。

7) 将来構想委員会

学会の持続的発展を可能とするため、特に若手会員の新規参入者を増やすための方策について検討を続けます。

年会やシンポジウムの形態について模索します。

4. 予算

1) 2023年修正予算（案）（会計年度：2023年4月1日～2024年3月31日）

2) 2024年度予算（案）（会計年度：2024年4月1日～2025年3月31日）

いずれも、別紙のとおりです。

**第31回日本免疫毒性学会
學術年会案内
黒田悦史次期年会長**

阪神甲子園球場

第31回 日本免疫毒性学会学術年会

～免疫毒性研究から環境・医療を見つめる～

酒蔵通り
Sakaguradori

庵寿岡

酒蔵頭
日本酒
庵寿岡

年会長：黒田悦史

(兵庫医科大学医学部 免疫学講座)

会場：兵庫医科大学 平成記念会館

〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1-1

会期：2024年 9月19日(木) 20日(金)